

終末期がん患者における予後予測と抗菌薬の効果との関連性についての検討

1、研究の目的と意義

進行癌の終末期患者は低栄養や体力低下を背景に感染症を併発しやすい集団です。本研究は、がんの終末期の余命と抗菌薬の効果との関わりについて検証します。2017年4月1日～2022年3月31日の5年間で当院緩和ケア病棟に入院した患者さんについて、予後予測の指標である Palliative Prognostic index を用いて予後不良群（Palliative Prognostic Index \geq 6点）と非予後不良群（Palliative Prognostic Index $<$ 6点）に分け、抗菌薬の効き方に差があるかを明らかにします。本分野に関する研究は限られており、本邦の実情を知ること、また終末期の抗菌薬の必要性についての知見を得られるという意義があると考えます。

2、対象となる患者さん

本研究の対象は、2017年4月1日から2022年3月31日までの期間で当院緩和ケア病棟に入院し、同入院中に亡くなった患者さんです。

3、研究の方法

対象患者の入院時点での予後を、Palliative Prognostic Index というツールで予測します。入院中に感染症を併発した患者さんを抽出し、予測した予後と抗菌薬の効果について統計学的に解析を行います。

【Palliative Prognostic Index】

Palliative Prognostic Index (PPI) は、得点が6より大きい場合、3週間以内に死亡する確率は、感度80%。特異度85%、陽性反応適中度71%、陰性反応適中度90%です。

※ Palliative Performance Scale

	起居	活動と症状	ADL	経口摂取	意識レベル
100	100%起居している	正常活動、症状なし	自立	正常	清明
90		正常活動、いくらか症状あり			
80		正常活動、何らかの症状あり			
70	ほとんど起居している	仕事困難、明らかな症状あり	ときに介助	正常 もしくは 減少	清明もしくは 混乱
60		家事困難、明らかな症状あり			
50	ほとんど座位もしくは臥床	どんな仕事も困難、著明な症状あり	しばしば介助	減少	清明 もしくは 傾眠±混乱
40	ほとんど臥床	ほとんどの行動が制限、著明な症状あり	ほとんど介助		
30	常に臥床	いかなる活動も困難、著明な症状あり	全介助		
20					
10					

※ Palliative Prognostic Index

Palliative Performance Scale	10-20	4.0
	30-50	2.5
	≥60	0
経口摂取*	著明に減少（数口以下）	2.5
	中程度減少（減少しているが数口より多い）	1.0
	正常	0
浮腫	あり	1.0
安静時の呼吸困難	あり	3.5
せん妄	あり**	4.0

4、研究に用いる試料・情報

- 患者背景：年齢、性別、癌種（臓器）、遠隔転移の有無、抗菌薬前治療
- 自覚症状、他覚所見
- 血液検査所見、抗原検査（尿中抗原）、培養検査（喀痰、血液、尿、皮膚、便等）
- 併用薬
- 抗菌薬治療：入院後発症の感染症に対する抗菌薬の種類、投与期間、治療効果
- 転帰：入院期間、抗菌薬開始後からの生存期間

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2024年3月31日

6、外部への試料・情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は千住病院のみで実施する研究です。

研究責任医師： 特定医療法人 雄博会 千住病院 呼吸器内科・緩和ケア科 千住 博明

8.お問い合わせ先

特定医療法人 雄博会 千住病院 呼吸器内科・緩和ケア科 千住 博明

住所：長崎県佐世保市宮地町 5-5 電話：0956-24-1010（総合受付）

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

千住病院 患者相談窓口（受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日除く））

住所：長崎県佐世保市宮地町 5-5 電話：0956-24-1010